



**ELFA
ARCHITECT LTD.**

エルファ・アーキテクト
坂井田優実



記 = 村瀬正彦（スマイルアーキテクツユニット）
撮影 = 金田奈美（CANA Planning）

「良きが上にも良きものを」

JARAに入会したばかりで自己満足の上限内に弛んでいた私へ坂井田優実前理事長が忠告くださった言葉である。ノリタケカンパニーを設立された大倉孫兵衛氏・和親氏の理念と伺った。私はJARA入会が勉学のためであったことを思い出し、かつ自分の底辺に近い作図レベルに気付かされる機会でもあった。知識と経験に裏打ちされた次元の違うご指導だったのだと戦慄を覚えた程である。

坂井田さんの事務所、有限会社エルファ・アーキテクトは愛知県名古屋市の名古屋城近く、幹線近くにありながら比較的静かな住宅地の一角に構えられている。構えるという表現が相応しい外観。忙しい時間の合間を縫い今回の事務所訪問を快諾して頂けた。実は私は何年も前より坂井田さんの事務所へ見学に参上したくアプローチを続けていた身である。今回は中部支部の金田奈美さんと一緒に少し、身が引き締まる思いで呼び鈴を押した。

静かな応接室に通されてすぐ、文化庁元主任文化財調査官半澤重信氏の著書「文化財を護る」という書籍を見せていただいた。国立近代美術館工芸館写真が表紙を飾る。ほんの数日前に半澤先生に直接戴いた大事なご本だという。「この論文をJARAのメンバーが読んで勉強できるようにするにはどうすれば良いでしょうか…?」「我々は目前の仕事だけ一生懸命していても駄目です。視野を広げる努力、多くの事に好奇心を抱き、文化・知識・精神性を踏まえた上で仕事に取り組み結びつけていく事が大事です。」

技職を以て社会に対する貢献を

坂井田さんのお父様はプラント設計の技師であったという。設計して何十年も経ったプラントが「今でも我が社の為に存分に働いてくれている」という嘗ての施主の言葉を聴いた時、坂井田さんはお父様の仕事に対する心掛けを改めて感じたという。坂井田さんが仕事を始められたきっかけは「デザイナーに憧れて…」しかし、お父様の仕事に対する姿を見られていた事も大きな要因でないかと思われた。

左上／事務所外観

左下／坂井田さんと金田さん（撮影担当）

仕事に相応しい環境

普段外部の者がめったに立ち入れない事務場の様子も見せて戴いた。数多くのプロジェクトが進んでおり、当然見たり話したり出来ない物件も多い。その中現在進行中の案件一例を見せていただき、設計・デザインの進め方について教えて頂いた。

「仕事をすすめるにあたって、オーナーとクライアントの理想にどこまで寄せられるか…」数多くのパース、スケッチ、提案書と共に模索する姿はどの設計事務所も共通。しかし他社と異なるのはスタディ段階であるにも関わらず圧倒的に美しいパース群。驚く私に「あくまでスタディ用ですよ。V-Rayも掛けていません。」しかし「クライアントに正確に意図を伝える必要がありますから丁寧に。」

意外に思えたのは色鉛筆で美しくドローイングされた平面・配置の提案図。「CADの線によりクライアントの想像力が止まってしまうのを避けているのです。」ただし、店舗・事務所・住宅など物件ごとに提案のアプローチは変化させているとのこと。それぞれに対応できる事務所の技術力の高さが伺われる。

エルファ・アーキテクトのPCは私から見てとても理想的な環境である。HP社のワークステーションZ840、Z820が複数台並び、Autodesk社のRevit、3ds Maxがスムーズに稼働している。最新のリアルタイムレンダラーソフト Lumion7も取材時既にインストールされていた。最終レンダリングは先述のV-rayを使用されることも。王道とも言えるアプリケーションのラインナップであるが、そもそも坂井田さんこそが建築ビジュアライザーとしてこの環境を探し導き始めた第一人者なのである。

建築視覚化開拓者の一人として

坂井田さんは90年代CG黎明期からその可能性を見出し模索を続けていらっしゃる。Imagemaker+Ray-Tracというごく初期のCGソフト等から始まり、FormZ+Lightscape、VIZを経て今のRevit+3dsMAX+V-ray構成に至った。「V-rayはとても奥が深いレンダラー。本当に出了たばかりの頃から付き合っていますが、まだ勉強しないといけません。」手描きとCGを合成させたハイブリッドという様式も早くから取り組まれ、リアリズムを超えた表現力をさらに高めようと今でも努力されており、私も常に啓発されている。



沢山の資料を用意して待っていてくださった坂井田さんに感謝。



エルファ・アーキテクト事務所
打ち合わせ室

左／半澤重信先生との2ショット。
いただいた御本とともに。

下／インタビュー風景（村瀬さん／坂井田さん）



今日は事務所の取材という形で訪問させていただいた。坂井田さんはご多忙理由に断ることも出来たはず。しかし色々準備を整えた上、受け入れてくださったのには歴然とした理由があるのではと考えている。コンピューターを用いた建築視覚化の先駆者から後に続く方たち、職能を以て社会に貢献しようとする方たちへの語りかけの機会としてである。私はこの訪問を通して、技術も大事だがそれ以前の心がけを感じることが出来た。また、とても難しい課題を再び戴いたのだと深く考えさせられる機会でもあった。